

手児のよび坂

アイヌの若者に恋した少女

昭和五十七年三月五日号

手児のよび坂は元吉原今井の東という説と、
原田清岩寺前という説があつて場所は定か
ではありません。

いずれにしても万葉の昔、旅人が遠くに残
した妻や恋人を想つて足を止め、積りつもつ
たせつなさが、いつかこんな物語となつて残
りました。

むかし、元吉原の海へに美しい娘がいまし
た。愛鷹山の向こうにはアイヌが住んでいま
した。

ある時、海でふと出会つた二人は、たち
まち恋をし愛しあう仲となりました。



夜ごとアイヌの若者は愛鷹山を越え、浮島
沼を渡つて遠い道のりを娘に逢うためにやつ
て来ました。娘も胸をときめかせて毎晩、村

はずれの坂の下まで若者を出迎えに行きました。坂のふもとでの二人の逢瀬がすぎていきました。

しかし、そんな二人の幸せは長くは続きませんでした。いつしか村人たちに知れ渡り、ねだみ、妨害する者があらわれるようになったのです。

水面に響く娘のよび声

アイヌの若者は、どんなにじやまをされても娘恋しさに通いましたが、じやまをする者がだんだん増えて、娘にあえなくなってしまうのです。

娘は毎晩、坂の下にたたずんで、いつまでも若者を待ち続けました。

まったく姿をみせなくなつた若者恋しさに

娘のせつなく悲しい声だけが、浮島沼の水面にいつまでも流れていったということです。



原田にある清岩寺山門